

はじめに

この本を書くにあたって、私が伝えたいことを考えていましたが、一番言いたいことはやはり子どもは光の存在で、それぞれお母さんのもとに生まれてきたのにはちゃんと意味があるということです。

想念という言葉は聞きなれないかもしれませんが、人間にとつてとても大事なもので、ここで少し説明をすると、脳に宿る霊的な存在で、宇宙と繋がるものです。想念を大事にすることは、人生を大事に生きるということになるので、どうかこの言葉も知ってもらいたいです。想念とは自分のコンセプトなどが詰まっている場所で、言い換えれば意識とか理念です。

世の中のことわりを知っている人たちは皆、引き寄せに使ったり、自分を安定させることに使ったりして想念を大事にしています。でも、現代では暴力や予防接種、薬などの影響で、子どもの想念は失われてしまっています。日本の子育てでは危ういのです。想念を大事にする子育てをぜひ知ってください。

そして、自分の子育てのときには知らなかった胎内記憶という言葉ですが、子どもが私に何か伝えたいことがあるというのはなんとなくわかり、いつも娘の想念を感じ取って教えてもらっている感覚がありました。長女が3歳になったぐらいにはシユタイナー教育を学んでいたので、子どもは一緒にいる大人に影響されやすいけれども、独立した1人の人間の考えを持っているということもいつも念頭に置いていました。私自身は魂が古く、自分の中に、もともと備わっていた考えがあり、子育てへの思いは強く感じます。

子どもたちは、お空でお母さんを選んで生まれてきたので、決して何もわからない存在ではありません。もちろん無意識であることがほとんどですが、潜在意識ではお母さんを幸せに導きたい、お母さんに輝いてほしいと思つて、日々何かを訴えています。

子どもを授かり育てることも、お母さん自身が必要な経験として、自分でその人生を選んでいるので、すべてに意味があると思つて、一緒に学びながら子育てを楽しんでもらいたいと思つています。子育てによって大きく成長しているお母さんたちは、子どもが光の存在であることを知っていて、子どもから差し出されている自分に必要な経験を受け取っているから、どんどん人生を切り開いていけるのです。一見トラブルに思えることでも、乗り越えるべき壁だと思えば、何か対策や打破する方法がやってきました。

私の長女は、次女が生まれてからアトピーを患うようになりました。私自身も主婦湿疹に悩まされてきて、どちらとも一般的な医療では無理だとわかってきたころ、何か治せる方法がないかと探していました。すると、ホメオパシーという自然療法に出会い、私が求めていたものはこれだと気づいたのでした。

ホメオパシーの専門家を訪ねると、病は精神を表わしており、私のトラウマや母に対する思いを克服できると病氣も改善されると知り、そこから一氣に自分の中が改革されていきました。

それからは、ホメオパシー治療のお陰で心身ともに緩んでいき、自分と向き合え、母を克服でき、人生航路が変わってきました。さらに自分の生きる道にも繋がって、保育士資格を取ったり、胎内記憶を勉強したり、今では宇宙ともお仕事しながら自分の使命を全うしていると言えます。こうやって子育てから、自分と向き合うことを教えられて、自分を大切にする思いを学びました。

そうやって心のことを学んでいくうちに、娘も私もデトックスしながら、アトピーもよくなってきたのです。

この本では、そんなふうに子どもはお母さんたちを、自分の生きる道に導くガイドになることもわかってもらえたらいいと思います。どんな子どももお母さんが大好きで、輝いてほしいと心

底思っています。中には地球に生まれてちよつと思つていたよりつらいと感じる子もいて、お母さんに氣づいてほしくてトラブルを起こしている子もたくさんいます。

この私も子どものころは母に喜んでもらいたくてやったことでも、逆に怒られて、わかってもらえないこともありました。高校生のときから悪化した母との関係でしたが、改善されたのは、私自身がお母さんを助けたいという子どものころの氣持ちを克服して、母を超えて、感謝の氣持ちを持てたときです。

たくさんの方がお母さんとのボタンのかけ違いを経験していると感ずるので、この本を通じて少しでも緩んでいただけたら嬉しく思います。

そんなことも書いていますので、この本を手に行っている方にも自分の人生を生きるヒントになればと思います。特に宇宙から来た子どもたちは、過酷な状況を選んで来ています。お父さんお母さんがこういったことに氣づかない場合もあるので、ぜひ保育者の方や教育者の方にも知ってもらえたら光栄です。